

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月13日

上場会社名 ナノキャリア株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4571 URL http://www.nanocarrier.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 中富 一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) CFO兼社長室長 (氏名) 松山 哲人 (TEL) (04) 7197-7622  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	358	△19.3	△921	—	40	—	36	—
26年3月期第3四半期	444	121.1	△784	—	△632	—	△634	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
27年3月期第3四半期	0.91		0.87					
26年3月期第3四半期	△17.93		—					

(注) 平成26年2月12日開催の当社取締役会の決議により、平成26年4月1日を効力発生日として普通株式1株につき100株の割合をもって分割を行っております。そのため、1株当たり四半期純利益につきましては、平成26年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	14,379	13,689	94.7
26年3月期	14,340	13,597	94.6

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 13,616百万円 26年3月期 13,563百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560	18.6	△1,428	—	△1,029	—	△1,070	—	△26.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

27年3月期3Q	40,283,200株	26年3月期	40,265,200株
27年3月期3Q	—株	26年3月期	—株
27年3月期3Q	40,272,473株	26年3月期3Q	35,379,889株

(注) 当社は平成26年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行いました。このため、前会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数 (自己株式を含む) 及び期中平均株式数 (四半期累計) を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におきまして、当社は、主要パイプラインの開発推進、新規パイプラインの探索、提携先の開拓などに積極的に取り組んでまいりました。

4つの主要パイプラインの進捗状況は下記のとおりです。

ナノプラチン® (NC-6004) につきましては、ライセンス先との共同開発及び自社による開発をグローバルに展開しております。

即ち、アジア地域（日本、中国、インドを除き、オセアニアを含む）では、ライセンス先であるOrient Europharma Co., Ltd.（台湾）とともに、台湾、香港、シンガポール及び韓国で、転移性及び進行性膵臓がんに対する第Ⅲ相臨床試験を実施しており、患者への治験薬の投与及び患者登録が進められております。更に、フィリピン及びマレーシアでも治験を実施すべく、治験届の準備が行われております。

日本及び米国では、自社開発を推進しており、日本では、固形がんを対象にした第Ⅰ相臨床試験が進められております。また米国では、肺癌（非小細胞肺癌）を対象とする拡大臨床試験（第Ⅰ相b/第Ⅱ相）がテキサス大学MDアンダーソンがんセンターを含む複数の施設で行われており、患者への治験薬の投与及び患者登録が進められております。

ダハプラチンミセル (NC-4016) につきましては、米国で固形がんを対象にした第Ⅰ相臨床試験が行われており、テキサス大学MDアンダーソンがんセンターで患者への治験薬の投与及び患者登録が進められております。

エピルビンミセル (NC-6300/K-912) につきましては、全世界を対象にしたライセンス及び共同開発契約を締結している興和株式会社とともに、共同開発を推進しております。日本では固形がんを対象にした第Ⅰ相臨床試験が行われており、患者への治験薬の投与及び患者登録が進められております。

パクリタキセルミセル (NK105) につきましては、日本を含むアジア地域を対象としたライセンス先である日本化薬株式会社から、転移・再発乳がんを適用対象にした第Ⅲ相臨床試験（国際共同試験）を進めている旨、発信されております。

新規パイプラインにつきましては、当社独自の先進基盤技術である抗体/薬物結合型ミセル「ADCM (Antibody/Drug-Conjugated Micelle)」を用いて次世代型医薬品の開発を推進しております。ADCMは、ADC (Antibody Drug Conjugate: 抗体薬物複合体) の新しい概念となり得るアクティブターゲティング技術であり、抗体医薬品の応用範囲を向上させることが可能です。当社は、ADCMを応用することで、医薬品候補物質のリプロファイル（注）を進め、病変部位へのターゲット性能向上や副作用軽減などによる治療域拡大を目指し開発を推進してまいります。

また低分子医薬品に加え、更に副作用が少ないとされているsiRNAなどの核酸や、タンパク質医薬品などの高分子医薬品に対するミセル化ナノ粒子技術の応用にも取り組んでおります。核酸やタンパク質などの高分子医薬品は、体内に投与されると速やかに分解され、十分な薬効を発揮できないという問題点を抱えており、この問題点を解決するため、世界的にも新しいキャリア・システムの開発が期待されております。当社は、独自の核酸のデリバリー技術「NanoFect®」を確立し、さらに上記ADCMを付加したアクティブ型NanoFect®を用いることでターゲット機能を上げ、高分子医薬品の細胞内への侵入と薬物放出コントロールを可能にし、薬効を発揮することができる次世代型DDS医薬品の開発を進めております。

さらに、国内外の製薬・バイオ企業や大学・研究機関等との共同研究開発プロジェクトについても積極的に取り組んでおります。

化粧品事業につきましては、株式会社アルビオンが販売する美容液エクストラフェュールの原材料であるナノセスタの出荷が堅調に推移しております。そして同社とは、新たな美容液や育毛剤などの新製品の共同開発とその共同事業化を進めております。そのような化粧品事業の拡大を見据え、当社は、平成27年1月より化粧品事業部を創設しております。

経営成績につきましては、以下のとおりとなりました。

当第3四半期累計期間の売上高は治験薬供給収入や化粧品材料供給収入等により358,720千円（前第3四半期売上高444,402千円）、営業損失は921,668千円（前第3四半期営業損失784,532千円）、経常利益は40,390千円（前第3四半期経常損失632,672千円）、四半期純利益は36,663千円（前第3四半期四半期純損失634,515千円）となりました。

なお、当社は、平成27年3月期第2四半期累計期間（平成26年4月1日～平成26年9月30日）において、為替差益346,190千円を営業外収益に計上しておりましたが、平成27年3月期第3四半期会計期間（平成26年10月1日～平成26年12月31日）では、外国為替相場の変動による為替差益593,628千円が発生したため、平成27年3月期第3四半期累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）においては、939,818千円の為替差益を営業外収益に計上しております。これは、当社の保有する主に外貨建て預金の評価替えにより発生したものであります。

また、当社は、平成27年3月期第3四半期累計期間（平成26年4月1日～平成26年12月31日）において、受取利息25,616千円を営業外収益に計上しております。これは、主に外貨建て定期預金にかかる利息であります。

(注) リプロファイルとは、発売済み医薬品や開発が途中で中断された医薬品候補物質の問題点を改善し、患者にとって効果的で使いやすい製品へ最適化し開発することです。

(2) 財政状態に関する説明

財政状態につきましては、当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ38,513千円増加し、14,379,080千円となりました。負債は、前事業年度末に比べ54,100千円減少し、689,411千円となりました。純資産は、前事業年度末に比べ92,613千円増加し、13,689,668千円となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度（平成27年3月期）の業績予想につきましては、既に締結済の契約に基づく治験用製剤供給収入、化粧品材料供給収入、その他の契約収入等により、売上高は560百万円（前事業年度比18.6%増）、営業損失は1,428百万円（前事業年度営業損失1,123百万円）、経常損失は1,029百万円（前事業年度経常損失1,094百万円）、当期純損失は1,070百万円（前事業年度当期純損失1,113百万円）を見込んでおり、平成26年11月11日の「業績予想の修正及び営業外収益（為替差益）の計上に関するお知らせ」で公表した予想数値に変更はありません。

2. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,141,793	13,469,836
売掛金	27,240	71,842
有価証券	105,173	105,209
原材料及び貯蔵品	202,560	122,652
その他	112,238	129,417
貸倒引当金	△24	△24
流動資産合計	7,588,982	13,898,932
固定資産		
有形固定資産	39,410	163,858
無形固定資産	2,347	8,563
投資その他の資産		
長期性預金	6,500,000	—
その他	209,825	307,725
投資その他の資産合計	6,709,825	307,725
固定資産合計	6,751,584	480,147
資産合計	14,340,566	14,379,080
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	40,039	11,613
未払法人税等	33,993	13,025
資産除去債務	15,822	—
その他	113,125	99,291
流動負債合計	202,980	123,930
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	540,000	540,000
繰延税金負債	531	4,649
資産除去債務	—	20,831
固定負債合計	540,531	565,481
負債合計	743,512	689,411
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,242,904	10,247,417
資本剰余金	10,224,098	10,228,606
利益剰余金	△6,904,256	△6,867,592
株主資本合計	13,562,747	13,608,431
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	969	8,484
評価・換算差額等合計	969	8,484
新株予約権	33,337	72,753
純資産合計	13,597,054	13,689,668
負債純資産合計	14,340,566	14,379,080

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	444,402	358,720
売上原価	168,027	145,574
売上総利益	276,374	213,145
販売費及び一般管理費	1,060,906	1,134,814
営業損失(△)	△784,532	△921,668
営業外収益		
受取利息	4,542	25,616
為替差益	360,019	939,818
その他	1,134	360
営業外収益合計	365,695	965,795
営業外費用		
株式交付費	210,386	520
新株予約権発行費	3,402	3,216
その他	47	—
営業外費用合計	213,835	3,736
経常利益又は経常損失(△)	△632,672	40,390
特別利益		
固定資産売却益	—	9
特別利益合計	—	9
特別損失		
固定資産除売却損	28	684
特別損失合計	28	684
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△632,700	39,715
法人税、住民税及び事業税	1,815	3,051
法人税等合計	1,815	3,051
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△634,515	36,663

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。